

令和元年9月6日  
 四国電力株式会社

## 伊方発電所3号機 高圧注入ポンプ3B電動機の不具合について（続報）

通常運転中の伊方発電所3号機（加圧水型、定格電気出力89万キロワット）の原子炉補助建屋地下2階（管理区域内）において、高圧注入ポンプ<sup>※1</sup>3Bの定期運転を実施していたところ、電動機の軸受部付近から白煙状のものが発生したことを運転員が確認しました。

このため、9月5日15時09分、高圧注入ポンプ3Bを停止し、定期運転を中断しました。

高圧注入ポンプ3Bが動作不能と判断したことから、同日15時09分、保安規定に定める運転上の制限<sup>※2</sup>を満足できない状態となりました。

（9月5日お知らせ済み）

その後、高圧注入ポンプ3B軸受潤滑油の圧抜き部を確認したところ、白煙状のものは、内部の油分がポンプの運転に伴って霧状となって排出されたものであり、ポンプの機能・性能に影響を与えるものではないことを確認しました。

そのため、中断していた高圧注入ポンプ3Bの定期運転を再開し、正常に運転できることを確認しました。これにより、同日23時02分、運転上の制限を満足し、通常状態に復旧しました。

本事象は火災ではなく、また、環境への放射能の影響はありません。

※1：1次冷却材配管の破断等により1次系の水が漏えいした場合に、原子炉を冷却するための水を供給するポンプ。

※2：保安規定では、安全機能を確保するために必要な機器の台数等を「運転上の制限」として定めており、高圧注入ポンプは、プラント通常運転中に2台が運転できることを求めている。

